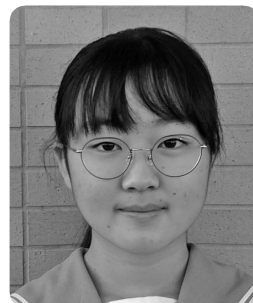


【中学校の部】優秀賞

私の仲間

国東市立安岐中学校 3年
吉岡 菜々美



私は、1年生の春から3年生の夏まで、吹奏楽部に入っていました。3年生になって私のパートの後輩は5人となり、教えるのと自分の練習との両立がより難しくなりました。私は教えながら、自分でも厳しいかなと思う時がありましたが、後輩は私の話を聞いてくれて、さらに練習を重ねていました。私は、後輩が上達・成長していくのを近くで見ることができて、とても嬉しかったです。

私達は今まで、学校行事や地域のイベントなどで沢山演奏をさせて頂き、全てに思い出がありますが、一番思い入れが強いのは3年生で出場したコンクールです。今年は、部員34名中3年生は7名だけで、さらに昨年はコンクールが無かったので、コンクールのステージ経験者は5名だけという状態での出場でした。

不安を感じながらも、練習は始まりました。私は2年前の先輩を思い出しながら、私なりの方法で教えていきました。練習がうまく進まず焦り、悩んだ時もありましたが、何とか少しずつ、みんなで曲を創っていくことができました。

私はこのコンクールの練習を通して、みんながいるから音楽ができるという事に気がつきました。誰か一人でも欠けると、それはどこか足りない、不完全な音楽になります。誰か一人が秀でているよりも、みんなが同じ目標を持って努力することが大切だと思いました。

コンクール当日は誰も欠けることなく、全員でステージに立てました。2年ぶりに、あのステージに立ちました。私は最前列なので、後ろにみんながいます。振り返った時に見えた1年生の緊張した面持ちが、かつての私と重なりました。先生が指揮棒を振り、最初の一音を吹いた瞬間、ホールの空気を私達の音が支配したような気持ちでした。始まる前の緊張はみんなで演奏ができる喜びに変わり、心から楽しんで演奏をしていました。ずっと練習してきた12分間の演奏は、本当に一瞬で過ぎていきました。

6時間後、発表された結果は、銀賞でした。もちろん、残念だという気持ちはありましたが、ずっと一緒に頑張ってきた仲間達とあの舞台で楽しく演奏ができたという感動の方が大きかったです。発表後、私の2年生の後輩2人が泣いていて、悔しかったのだろうと思って話しかけると、「もうすぐ3年生が引退することが悲しい」と言ってくれました。思いもよらなかった言葉に驚いたと同時に、とても嬉しかったです。

コンクールのステージで楽しんで演奏できたのは、練習を重ねて演奏に自信を持てたからだと思います。今まで努力してきた良かった、そして、仲間がいてくれて良かったと心から思いました。コンクールの十日後、3年生の最後のステージとなるサマーコンサートが開催されました。感染症対策のため人数は限られましたが、沢山の方に聴いて頂くことができました。聴きに来て下さった方々は、私達の演奏を「とても良かった」「感動した」と言って下さいました。私達吹奏楽部員も、楽しんで演奏することができました。私は、私達の演奏を聴いてくれる人が少しでも元気に、楽しい気持ちになってくれたらなと思って、今まで演奏をしてきました。音楽は、音をつなぎ奏でるだけでなく、人の心もつなげることができると、私は思っています。私達の音から学校や地域のみなさんへと、つながりを作ることができていたら嬉しいです。

私達3年生は引退となりましたが、つながりが断たれた訳ではありません。部活動で培った経験や、かけがえのない仲間達との絆を、これからも大切にしていきたいです。